

大阪 880 万人訓練 講評（2026 年 9 月 1 日）

- みなさん、880 万人訓練への参加、お疲れさまでした。今日は 9 月 1 日、防災の日です。103 年前の今日、関東大震災が起きました。そして、始業式でも話しましたが、この夏、7 月 28 日には熊本で震度 7 の大きな地震がありました。まだ、ひと月ほど前のことです。今日の「大阪 880 万人訓練」は、大阪にいる多くの人が、同じ時間に、地震が起きたときの行動を確認する訓練です。
- ここで、みなさんに知っておいてほしいことがあります。この学校のある北区は、淀川や大川などの川があふれたときの浸水、大雨による浸水、そして南海トラフ巨大地震による津波の浸水が想定されている地域です。つまり、災害は決して遠いところの話ではありません。この学校の周りでも起こり得ることです。
- 南海トラフ巨大地震が起きた場合、津波は最短でおよそ 1 時間 50 分で大阪市に到達すると想定されています。約 2 時間もある、ではありません。約 2 時間しかない。そして、その時間の中で正しく動けるかどうかは、地震が起きてから考えるのではなく、今、知っているか。今、考えているかで大きく変わります。
- もう一つ、覚えておいてほしいことがあります。阪神・淡路大震災では、生き埋めになった人のうち、消防などの救助隊によって助け出された人は約 2 割でした。残りの約 8 割は、自力で脱出したり、家族や近所の人たちの力によって助け出されています。大きな災害が起きたとき、消防車や救急車がすぐに来てくれるとは限りません。だから最後に大きな力になるのは、その場にいる人たちです。
- 中学生のみなさんも、もう「助けてもらっただけの人」ではありません。まず、自分の命を守る。そのうえで、困っている人に声をかけることができる。危険を見つけたら、大人に知らせることもできる。
僕がいつも言っている「となりの人を大切に」は、こういうときにこそ、本当の意味を持つのだと思います。
- だから今日、家に帰ったら、おうちの人と三つだけ話してください。

一つ。家族がばらばらのときに地震が起きたら、どこで落ち合うのか。

二つ。電話が繋がらないとき、どうやって連絡を取るのか。※

三つ。家の中で、一番危ない場所はどこなのか。

4・5 分で済む話です。でも、その 4・5 分が、いつか自分や誰かの命を守るかもしれません。防災訓練は、今日うまくできただろうかを確認するためだけのものではありません。本当に災害が起きたとき、自分の命を守ること。そして、できる範囲で、となりの人の命も守ること。そのための訓練です。

今日の訓練を、これからの備えにつなげてください。以上で、講評を終わります。

- ※ 注釈：電話が繋がりにくい場合は、LINE などのインターネット通信、災害用伝言ダイヤル「171」、災害用伝言板「web171」などを活用できます。あらかじめ家族で連絡方法と集合場所を決めておきましょう。